



図-5 麦収穫時のマルバルコウ (2012年6月21日)

合わせることで、温暖化にも対応できる効果的な防除時期の推定や防除法が開発され、分布拡大と被害が防止できるようになることを期待している。

参考・引用文献

浅見秀則ら 2021a. ダイズの葉齢進展モデルを活用した多筆圃場における帰化アサガオ類の適期防除. 雑草研究 66, 1-10.
 浅見秀則ら 2021b. 温暖地のダイズ狭畦栽培におけるイマザモックスアンモニウム塩を導入したマルバアメリカアサガオの防除. 雑草研究 66, 48-58.
 稲垣栄洋 2002. 雑草の成功戦略. NTT出版, 東京.
 伊藤操子 1993. 雑草学総論. 養賢堂, 東京.

小荒井晃ら 2014. 九州地域内で採取されたクサネムとアメリカセンダングサの開花時期に及ぼす発生時期の影響. 雑草研究 59, 11-14.
 森田弘彦 2021. 気温上昇のもとで水田雑草の動態変化を考える. 植調 55, 18-24.
 日本雑草学会編 2001. 雑草科学実験法. 日本雑草学会, 東京.
 中谷敬子・草薙得一 1991a. 主要畑夏雑草の生育特性, 特に出穂・着蕾に及ぼす日長および温度条件の影響. 雑草研究 36, 74-81.
 中谷敬子・草薙得一 1991b. 主要畑夏雑草の生育および種子生産に及ぼす播種期の影響. 雑草研究 36, 176-182.
 農研機構中央農業総合研究センター 2011. 帰化アサガオ類の地域全体へのまん延を防止するためのほ場周辺管理技術.

農研機構 2021. 診断に基づく大豆栽培改善技術導入支援マニュアル. 大豆栽培における難防除雑草の防除.
 澁谷知子ら 2007. 帰化アサガオ4種の出芽可能期間と種子生産. 雑草研究 52 (別), 186-187.
 澁谷知子ら 2010. 帰化アサガオ類の生活史特性と対策 1. 開花結実の日長と温度反応性. 雑草研究 55 (別), 53.
 澁谷知子・中谷敬子 2020. 帰化アサガオ類4種の生育・着蕾・種子生産に及ぼす日長の影響. 雑草研究 65, 110-113.
 汪光正熙ら 1996. ミズアオイとコナギの開花の日長反応性特性. 雑草研究 41, 241-246.

田畑の草種

柳蓼 (ヤナギタデ)

タデ科イヌタデ属の一年草, 時に多年草。全国の畦や休耕田, 河川敷や水路の水辺など湿った所に生育する。茎は直立し, 無毛, 高さ 30-80cm。3-10cm のヤナギのような葉をつけるのでこの名がある。

イヌタデ属は日本に 20 種余りありすべて草本で, それらを分類するには花序, 葉の形, 托葉鞘の形状などを観察することになるが, ヤナギタデだけはすぐわかる。葉の先をちぎって噛んでみればいい。数秒の青臭い味の後, ピリリッとした辛さで舌先が痺れ思わず吐き出してしまふ。ヤナギタデの辛み成分タデオナールの仕業である。一説には「蓼」という名前は, この舌先がただれるように辛いことから「ただれ」が「たで」になって名付けられたのだという。

「蓼食う虫も好き好き」という諺があるが, その「蓼」がヤナギタデである。あんなに辛いヤナギタデでもその蓼を食べる虫 (例えばホタルハムシなど) がいるように人の好みは様々だ, という喩えに使われるのだが, そもそも人の好みは様々で, その辛さを生かした「蓼酢」という調味料がある。ヤナギタデの

(公財)日本植物調節剤研究協会
兵庫試験地 須藤 健一

葉を擦りつぶして酢でのぼしたものであるが, なんでも鮎の塩焼きには欠かせないものらしく, 食通で知られる北大路魯山人は「鮎を食う」の中で, 「食べるにははらわたを抜かないで, 塩焼きにし, 蓼酢によるのが一番味が完全で, しかも, 香気を失わないでよい。」という。

さらに言えば, ヤナギタデの栽培品種であるベニタデ, ホソバタデ, アオタデなど, 辛み成分の多寡はあるが, ベニタデやホソバタデは白身の魚に, アオタデはその青みを生かして赤身の魚にと, それらの芽蓼を刺身のツマとして特徴を生かして使ってきている。

日本在来で, 少なくとも万葉の時代から知られ, 利用もされていた。万葉集巻 11 に「吾が宿の穂蓼古幹摘み生し・・」とあるとおり, すでに自分の家で「蓼」を栽培していたことが想像される。ここで栽培されていた「蓼」は, すなわちヤナギタデであったはずである。

以来, 繊細な日本のハーブとしてのヤナギタデを「蓼食う虫」である「人」は連綿として利用してきたのである。